

競技チアリーディングにおける現状と今後の課題

The present situation surrounding the cheerleading and the future issue.

1K03B064-7 北澤 志帆

指導教員 主査 木村和彦 先生 副査 原田尚幸 先生

【緒言】

近年日本は、転換の時代を迎えている。戦後、多くの人々が生活に困らないがお金があり余るわけではない、という中流階級を目指して努力していた。しかしその後、バブル経済到来、そして崩壊を向かえ、「失われた10年」と評されるまでに落ち込みを見せた。そして現在、日本の景気は回復を予期させているものの、日本には経済格差がもたらさせる結果となった。

この「格差社会」に代表されるような、経済システムの変化、社会構造の変化は、社会を構成する一人一人の生活スタイルの変化をもたらし、価値観の変化を促す結果となった。この変化は未だかつてないスピードと振れ幅で進行を続けている。このような状況を踏まえ、日本は転換の時代を迎えているといえるであろう。

転換の時代は日本人に、個の多様性、個の独立の享受を強いる。その為「孤独感」「アイデンティティの喪失」と2つの大きな問題を与えた。内面にある2つの問題は、いじめ、自殺、肉親による殺害事件など大きく膨れ上がり表面化した。人間が内包しているこの2つの大きな問題を解決しない限り、社会問題は解決しないのではないだろうか。

筆者は、「孤独感」「アイデンティティの喪失」という問題に対して、独特な歴史、競技特性を保有している競技チアリーディングが問題の解消へと貢献できる可能性が大きいのではないかと考え、本研究を始めるに至った。

【方法】

諸文献、資料を参考に、チアリーディングへの理解を深め現状を把握した。特に、歴史、競技スポーツへの発展、ルール等を明確にすることでチアリーディングの競技特性を把握し、チアリーディングが社会へ提供できる効果の検討を行った。

次に、チアリーディングの発展に大きく貢献した社団法人日本チアリーディング協会についてさらなる発展の為、諸文献、資料を参考に、現状を把握し提言を加えた。

【競技チアリーディングの特性】

チアリーディングの起源は二説あるが、いずれにしても19世紀後半、アメリカ合衆国において「応援する、賞賛する」気持ちによって始まったと言われている。日本に伝来し競技としての発展を遂げた現在でも、その真髄は変わっておらず、人への激励を表現する表現スポーツである。

チアリーディング最大の競技特性は、この点に集約されるであろう。また、アメリカに起源を持ち、日本で競技としての確立が進み、アジア、ヨーロッパへ広がりを見せているという国をまたいだ発展の経過は、他のスポーツには見られない特徴である。

【チアリーディングによる効果】

競技チアリーディングは、4人1組で行うパートナースタンス、5人以上で行うピラミッドスタンスが含まれるスポーツである。またルール上、ダンス、ジャンプ、モーション等チームメイト全員の動きを統一する必要がある。その為には、価値観のすり合わせが不可欠となり、「孤独感」の解消が期待できる。

また、競技特性として「人を賞賛するスポーツ」であること、そして、スタンスを行う際にポジションによる役割の違いが生じることから「アイデンティティ」の確立が期待できると考えられる。

【チアリーディング協会の現状】

競技チアリーディングの発展は、チアリーディング協会の存在による所が大きい。日本協会は国際チアリーディング協会本部を日本に置き、世界を先導している。日本の代表チームは世界大会で3大会全てにおいて優秀な成績を残しており、競技人口も増加傾向にある事がわかっている。つまり、平田ら（2003）によるトリプルミッションモデルによると普及、勝利、市場において拡大を続けているという点から、協会の経営は悪くないことを表している。

【総括】

社会問題に対して有効な解決策を提供する可能性を秘めているチアリーディングは、協会の経営を含め順調に発展を遂げているといえる。しかしながら、普及の面においては、競技チアリーディングを知らない、または知っているが見たことがない、チアリーディングをスポーツとして捉えない等の意見を耳にすることがある。この事を考慮すると、順調だと言い切れないことも事実である。その為、①プロスポーツやイベントとの連携、②地域のスポーツスクールとの連携、③教育現場への浸透を行うことで、チアリーディングを幼少期から「見る」「する」文化を創造し、チアリーディングに対して正しい認識を与えることが出来るのではないだろうか。そのことが普及に繋がり、チアリーディング全体の発展に繋がると期待される。